

## 「蔵伝」プロジェクトで中の太田家の蔵を公開

角館まちづくり研究所(代表 菊地道彦)では「蔵伝」プロジェクトの一環として社団法人住まい・まちづくり担い手支援機構、東北電力から補助を受け、昨年9月から角館の蔵の実態調査を行いました。その調査結果の展示発表などが「中の太田家」の大蔵2棟の公開を兼ねて、2月10日から14日に開催されました。



「中の太田家」の40坪の米蔵には、角館町旧町内に101棟という多数の蔵が見つかった調査結果を中心に、それを生んだ地域の時代情勢、家主から公開が許された数軒の蔵の図面や構造などが展示され、5日間で700人を超える来場者がありました。この「中の太田家」の蔵は、大きな小屋の中にあり、蔵の姿が外から見えないため、来場者のほとんどは大きな蔵の存在に驚いた様子。また、老齢の大工さんが昔の蔵の図面を持参し、メンバーが勉強させてもらう場面もあり、伝承の機会も生まれました。

11日は、外町交流館で日本建築家協会東北支部岩手地域会の会長などをされている渡辺敏男氏の講演や、「蔵の保存、再生、活用に向けて「蔵がある…」」と題して門脇市長らによるシンポジウムも行われ、パネリストから蔵を利用した地域の活性化等の話がありました。会場には約60人が集まり、蔵主からは、蔵への愛着や維持のための経費面での問題があること、現在どのように活用しているかなど、パネリストからは、蔵も含め町屋等の保存は次の世代にうまく引き継ぐことが課題との意見など、各立場からの発言がありました。

13日には「蔵めぐりツアー」が行われ、市内外から50人が初公開の蔵を含む6棟を見学をしました。小正月行事の季節柄、県外からの参加者もあり観光的な展開も伺えたようです。

「今回の企画は、現存する蔵の数が予想以上に多かったことを、蔵を身近に暮らしてきた市民にお知らせする目的を第一に行いました。多くの方にお越しいただき、心から感謝しています。来場者の多さは、皆さんが蔵や歴史的なことに興味を持っていることの表れと、感動しました。今後の活動は今回得たものを糧にして発展させたい」と菊地代表。来場者も、未知の部分が多い角館の蔵について、ますます興味を深めたようでした。

## 福を呼び込め!「節分祭」

2月3日、無病息災を願う「節分祭」が角館町神明社で行われました。

節分行事の由来は、旧暦で、立春が1年の始まりであったことから、立春の前日にあたる2月3日に1年の邪気をすべて祓ってしまう鬼払いの儀式です。

神明社では、氏子や33歳、42歳の厄祓い、後厄を終えた代表、還暦の方々の代表などが「福は内」「鬼は外」の掛け声とともに豆や紅白もち、お菓子などをまくと、境内に集まった約200人の人たちが福を呼び込もうと一斉に手を伸ばし豆やもちを拾っていました。



また、境内に設けられたテントでは、仙北市商工会、角館町観光協会による温かい甘酒等が振る舞われました。

## 「仙北市立病院等改革推進計画検証専門委員会」開催

平成21年3月に市が策定した「仙北市立病院等改革推進計画」の取り組み状況について検証する「仙北市立病院等改革推進計画検証専門委員会」の第1回目の会議が、2月8日に市役所角館庁舎で開催されました。

この委員会は、地域医療に対する専門的知識を有する方々から検証を行っていただき、取り組みの客観性の確保に努めるとともに、透明性を図る観点から、積極的な情報開示を行うことを目的として設置しています。

会議の中で各委員からは、「改革の実施については、もっとスピードを上げて取り組むべきである」とことや「病院運営については、将来的に特色を持つ病院のあり方なども検討すべきではないのか」などをはじめ、市立病院の運営に関することについて専門的立場からの貴重なご意見をたくさんいただきました。

市では、先に開催された「仙北市立病院等改革推進計画検証市民委員会」での検証内容と今回の専門委員会での検証内容を踏まえ、一層の病院経営改革に努めて参ります。

